令和５年度主要農作物品種審査会（水稲・大豆）会議録

１　日　時：令和６年２月６日（火）　午前１０時から正午まで

２　場　所：宮城県行政庁舎４階特別会議室

３　出席者
（１）　委員：８名
　本間香貴、佐々木利幸、高橋久則、高橋清範、加藤房子、大崎早苗、小粥恵子、齋藤裕
（２）　幹事：５名
　千葉啓嗣、佐藤潤一、門間陽一、佐々木都彦、滝澤浩幸

４　会議録

〇事務局（増岡班長）
　定刻になりましたので、ただいまより主要農作物品種審査会を開催いたします。開会にあたりまして、本間香貴会長よりご挨拶をお願いいたします。

〇本間会長
　本日は御多忙中、また雪の中にもかかわらず主要農作物品審査会にご出席いただき、厚くお礼申し上げます。今回の主要農作物品種審査会では、次年度の優良品種決定調査に供する稲大豆の系統についてご審議いただきます。
　さて、水稲につきまして、令和５年産の本県の作況指数は 105 のやや良となり、収量は平年を上回りましたが、6 月から 9 月にかけての記録的な高温により、玄米品質の低下が見られました。このような状況を踏まえ、主食用米については、気候変動に対応しつつ、実需や消費者のニーズに合った特徴のある品種がますます求められるようになってきています。
　また大豆につきましては、令和４年３月にすずみのりが優良品種として採用されました。昨年度から原種生産を行っており、今年度からは種子生産が始まりました。すずみのりは加工適性にすぐれ、実需者の求める品種と伺っています。全国有数の大豆産地である宮城県のさらなる発展を担う品種となることを期待しています。一方で、実需者が求めている品種と生産性の高い品種がミスマッチ状態となっております。生産者と実事者の両方に好まれる品質の採用に向けて引き続き検討していく所存です。
　本日お集まりの皆様には各審議案について十分にご討議いただき、忌憚ないご意見やご提案をいただけますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。それでは、本日はよろしくお願いします。

〇事務局（増岡班長）
　ありがとうございました。続きまして本日ご出席いただいております。委員と幹事の皆様をご紹介させていただきます。次第の裏面をご覧ください。名簿順にご紹介いたします。
　（出席委員８名を紹介）

　現在委員１０名中７名にご出席いただいておりますので、主要農作物種子条例第 22 条第２項の規定により、委員の半数以上が出席されておりますことから、会議が成立しますことをご報告いたします。これより審議に移りますが、ここからの進行につきましては、

主要農作物種子条例第 22 条の規定により、会長を議長に進めてまいりたいと思います。それでは本間会長よろしくお願いいたします。

〇本間会長
　本審査会につきましては、情報公開条例に基づきまして、公開で開催させていただきますので、ご了承願います。次第の次のページに知事からの諮問文がございますので、ご覧願います。諮問事項は「令和６年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」及び、令和６年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」でございます。本日は次第の通り、最初に推移と次に最初の順番で審議していきたいと思います。

　それでは審議について報告事項として令和５年度優良品種決定調査成績について事務局からご説明願います。なお、報告事項のご意見ご質問は討議の時に受けさせていただきます。

〇事務局（佐藤（直））
　優良品種として要望される品種（水稲）について説明。

〇佐々木幹事
　令和５年度優良品種決定調査成績（稲）について説明。

〇佐々木幹事
　令和６年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について説明。

〇本間会長
　最初に先ほどの報告事項について、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。審議事項についての質問は、報告事項の質問の後に受けさせていただきたいと思います。報告事項の方から内容いかがでしょうか。

〇高橋（久）副会長
　近年多発しているこの登熟期間の高温については、平成 15 年以降、約 20 年間冷害と言われるものはなく、私が県職員だった時、昭和 50 年代、４年連続の冷害がよくあったため、古川農業試験場では耐冷性の試験ということで、強制的に地下水、低温の水にさらした状態で栽培し、優位性を含めて確認されていると思いますが、この高温登熟性といったところでの試験研究開発は、通常年の 20 年も高温が続いている状態での評価なのか、あるいは特殊なハウスの中で、一年高温をかけながら稲作の全期間を調査して高温登熟性があるという評価をされているかお聞きしたかったです。

〇佐々木幹事
　鉄骨の育苗ハウスの跡地を古川の方で使っておりまして、普通の田んぼではないのですが、プラスチックコンテナの中に稲を移植して、出穂後、夜間暖房をしながら出穂 25 日後まで平均気温が 28 度以上になるようにコントロールしています。
　東北６県の連絡試験で基準品種と一緒に栽培しながら、それと比較して品質がそのレベルか、この系統は強いのか判定しています。他の県では、圃場に大きな鉄骨ハウスを建てやっているところもありますけど、本県はコスパ重視でやっております。

〇高橋（久）副会長
　もう二つだけ。今のその高温登熟性に関する試験にあわせて、近年つや姫とコシヒカリの出穂期、登熟完了の時期がどうか研究されていると思いますが、成績で見てみると、９

月 10 日から 15 日ぐらいで登熟完了の品種になっているかと思います。しかし、その今後高温のことを考えていくと、それと比較して品質的に落ちないレベルではなくて、例えば超晩生のように、９月 20 日ぐらいにならないと登熟しない、そしてその状況下で非常に優良な品質形質が発現するとか、他県でやっている制度でなく、高温に対して目指すもの、最初からその辺あたりを目指した品種開発というのはできないものでしょうか。

○佐々木幹事
　本質的な、生理的な高温耐性に関しては、今、色々な遺伝子源を集めながら、染色体の効果を見ています。遺伝子集積を新年度からやる予定にしております。
　高温耐性に関して、西日本のように秋も気温が上がってくれればよいのですが、こちらはあまり遅くし過ぎると温度が下がる可能性もありますので、その出穂期はある程度抑える必要があるかなと思っています。でも、先ほど最初に申し上げました通り、本質的な高温耐性をつけるように、遺伝子源を文献でも調べておりますので、それを掛け合わせて、数年ぐらいでは少なくとも優良品種に供試することができるものを作ることを目指しております。

○高橋（久）副会長
　ぜひ頑張ってください。最後にもう一点だけ。本調査の中で、資料４ページ、備考欄に書いてあるカドミウム低吸収性の品種の検討で、東北 235 号、巨大胚低アミロースで東北胚 232 号、いずれも調査終了の形で決断をされているかと思います。特に私も在職中に色々報告をいただいていた中で、カドミウム低吸収性についてはいろいろ研究開発をしている中で、宮城県も早めに出したいということで、東北 235 号についてはずっと継続検討されてきました。
　調査年数はどちらも４年ですよね。本調査は３年から５年の間だとは思うのですが、４年まで引っ張った結果、調査終了という形の決断をされたということであれば、また一から予備調査、あるいは本調査に入ってくるのかもしれませんが、また期間がかかっていくということからすると、また時間がかかりすぎるかなというふうに、考えてしまうのですが。金のいぶきの後継の部分も４年やって調査終了という判断をされたということであれば、その辺の見解を含めて、もっとスピードアップして新たな品種を投入して試験していく部分があるのか、お願いします。

○佐々木幹事
　この２系統につきまして、実需のニーズも踏まえながらということで、栽培的には非常によろしい。特に東北胚 232 号は栽培特性的に非常によろしいですけれども、どのくらい需要が見込めるか未確定なものもあるもので、特性は把握できたので、調査終了ということにさせていただきます。ただしいつでも、品種採用ができるように、育成者権だけは確保する方向に向けて今作業を進めているところでございますので、また一から振り出しではなく、いつでもすぐに出せるように取り組んでおります。

○高橋（久）副会長
　分かりました。

○本間会長
　私も、確認しようと思っていたのですけども、東北胚 232 号については一応品種にできる状態で、調査としては終了という判断ですね。金のいぶきは栽培的に難しいところがあると聞いていたので、栽培がしやすいものが品種にならないとなったら、いつどういうタイミングで品種になるかと思っていたのですが、もう少し状況を見ながら品種登録も考えるというふうにさせていただいたということでよろしいですかね。ありがとうございま

す。
　私からですけど、昨年は結構な高温で、それが今後続くかどうか、すごく気がかりなところがあるのですが、ひとめぼれやまなむすめを基準にしていた品種が、標肥では白未熟粒が20%台という辺りが、やはりそのあたりの数値としてなって出ているかなとは思うのですが、現地試験でもこのぐらいの数値が出てきたのでしょうか。

○古川農業試験場　我妻主任研究員
　古川農業試験場の担当している我妻と申します。現地での玄米品質ですが、やはり同じような傾向でして、特に大河原普及センター管内の角田の現地調査だと、特に高温の影響による基白粒とか白未熟粒がかなり発生しているということで、成績検討会の場でも各普及センターの方から、一刻も早く高温耐性に強い品種を優良品種に設定してほしいと要望はいただいております。

○本間会長
　そのような観点からすると、福島64号は比較的品質がよかったというところで、予備調査で岩手152号は収量が少ないために打ち切りにしていますが、収量が低めであれば、比較的高温耐性が比較的強いということもあると思うのですが、収量が少ないからというよりは、高温耐性をより軸に指定し、残すという方も考え方もあると思うのですがいかがでしょうか。

○佐々木幹事
　新しい品種を採用するにあたっては、トレード的なものであれば、収量が少なくても品質がいいよというので、別な方法でカバーしなくてはいけないですけど、同じ条件で比べてどっちを取るかっていうのが出てくると思います。最大公約数的なもの、最小公倍数的なものというか、兼ね合いの中からバランスの取れたもので選ぶことになるので、どれか一つ秀でたものは、なかなか選びにくいのが現状ですので、ご理解いただければと思います。

○本間会長
　どうもありがとうございます。

○佐々木副会長
　生産者団体が高温耐性品種を早く開発してほしいというお話があって、先ほどの回答もおっしゃったとおり、つや姫と比較されても困る、生産現場ではもう毎年毎年高温になっているので、早く開発をお願いしたいということでございます。
　金のいぶきはできた製品自体が４割から５割ぐらいすでに規格外の扱いで、等級まで入らないという部分と、一方今年の種子については種子にはならなくて、もみで流通をせざるを得なくなっている状態です。種子についても製品についても高温の影響を受けていることで、生産者の立場からすると、種子を生産する方々も、もみにしかならないのであれば、結局コストの部分で収益が落ちますし、一方、６年播種する生産者もその品質であれば敬遠しがちで、余ったもみを残籾処理しなくてならないということで、生産者の立場からすると５年産の金のいぶきは厳しい年だったと思っていますので、こういったところも踏まえて考えていかなくてはならないのかと思います。

○本間会長
　ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○小粥委員
　私の方から予備調査で、△から×とか、打ち切りになった系統についてですけれども、それらの結果について、要望される品種のうち、イ、ロ、ハのうち、ハの新たな需要を創出する品種として期待される、例えば低コスト栽培とか収量性に極めて優れる品種とか、酒造好適米に関しては、今年度本調査に行くものが結果的になくなっているという理解で読んだのですけれども、実需者とか農業者の方とお話していますと、今まで出ておりました高温耐性に対する要望のみならず、主食用米だけではなくて、新たな分野へのお米がかなり求められていることからすると、やはりこうこういったところに対する、好適米がいずれできてくるような形で、今回、予備調査の結果自体が悪かったというのは理解するものの、なかなか残れなかったっていうことのないように、次年度の予備調査等については、やはり考えを持っていくべきではないのかなと思ったところでして、飼料用米とか、主食用米に限らず、低コストかつ栽培しやすい米を絶対的に見た上で調査が行われるように期待したいと思いますが、いかがでしょうか。

○佐々木幹事
　おっしゃる通りですね。低コストかつ、収量性ですね。低コスト化には収量性が手っ取り早いわけですけれども、各育成地からこれはどうでしょうかと来て、その調査が予備調査ですが、やってみると収量的には、令和５年度の成績でもそうでしたけども、それほどでもないっていうのは結構ありまして。
　リリースされているものでやってみて、成績がハに適合するから成績が良くなくても上にあげることはなかなかできないということですね。それは新しい系統で各育成地に情報やり取りしながら、材料を集めていきたい。そしてあと適切に評価していきたいということで考えています。甘くするということで、やりにくいので、ご理解いただければと思います。

○小粥委員
　試験結果を甘くしてほしいというわけではなく、そのハで結局上がれたところがないっていうところから、予備調査においても、イ、ロに重視しないでハの部分も、ある程度品種を多く持って行くとか、ある程度勝てるようにとのご意見なので他が 100 点なのに、ここだけ 80 点にしましょうという話ではないので、その辺はそういう意味ではないのでよろしくお願いします。

○佐々木幹事
　ありがとうございます。カテゴリーを固めないということでありがとうございます。

○高橋（清）委員
　先月 20 日のものですが、関連性があると思って今お話ししたいですが、宮城県米づくり推進本部で、昨年の高温障害の影響を受けて話し合いが持たれたという記事が農業新聞の記事にもあったのですが、その中で高温耐性を持っている山形県の品種つや姫を使うということでございますが、つや姫の種子籾は十分対応できるのでしょうか。
　失礼ながら、私は専業農家ですので、わかることなのですが、同じひとめぼれでも５月１日に植えたものと、６月１日に植えたもの、１か月の差は品種特性もあるのですが、その植える時期によって収量はそんなに変わりません。今はずっと高温が続いていますからね。以前のように６月になって少し温度が下がってくると、収量や品質に影響もあるのですが。
　ですから、極端な話、どなたかも言いましたが、品種においては、その確実にその高温に合わないよう、つや姫やひとめぼれより遅らせる、出穂が遅い品種を農家は望んでいると思います。

ちょっとしたその温度の違い、２、３度の温度の違いで、生育に差が出てくるのですよ。例えば7月の20日ごろの減数分裂期の時に16度以下の温度が４、５日続けば冷害です。私はひとめぼれをずっと作っていますから、やっぱり現場にあったその環境にあったように性質が多分変わると思うのですが、前と比べて倒伏耐性が弱くなりました。ただ、収量は結構安定しています。前は肥料効率も良くて、なかなか転ばなかったのですが、最近ちょっと肥料が多いと転んでしまうのですよ。

特性そのものも、改善するのは難しいと思うのですが、やはり先ほど申し上げましたように、出穂時期が後れて、必ず冷害から回避できる、高温も回避できると、しっかりと分けられるような品種にした方が、農家は作りやすいですよね。あとはその人の考え方で、消費者とか実需者の関係で、微妙に品種は多分ウェイトがあると思います。あとは確実に安定した収量が欲しいという方は、やっぱりその品種特徴をしっかりと踏まえて、それだったら例えば、コシヒカリ、つや姫または別の品種を作ってほしいという思いが現場でもあります。

○佐々木幹事

リクエストということで、晩生品種で確実なものということで、各育成地にこういうものが欲しいということをアナウンスして供試できる系統を増やしていきたいと思います。その中で環境との兼ね合いもありますので、優良品種決定調査に供している環境下でベストを尽くしていくというような報告でやっていきます。ありがとうございます。

○高橋（清）委員

今年はだいぶつや姫を作付けする方が、同じ仲間で多くなりました。それと、もっと後ろの方に出穂できるように、早く開発してほしいという要望になりますのでお願いします。

○本間会長

ありがとうございます。ちなみに、例えば遅く植える対策などもやっていたかと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○滝澤幹事

今試験場内で実施している試験について、ひとめぼれやササニシキもデビューからかなりたってきて、基準や特性の話もありましたけれど、一番最初に作った栽培の基準が合わなくなったということは感じております。このようなことで、今作期をどこまで広げられるか試験を行っております。それで令和５年度、６月末まで田植えを伸ばしまして、色々と見ている中で６月10日ぐらいだと、昨年の高温でもお盆頃の出穂になるというのが結果としてありました。そこから20日過ぎてくると少し遅くなりすぎるかなという、６月末だと成熟期に達しなかった。そういう目安で表現していけるかなと、ただ、試験としてはそのようなデータは出るけど、営農的なことを考えると育苗が大変難しくて、いもち病も箱剤がすぐに消えてしまって、追加防除をしていくと、管理が大変だったので、いずれそこは問題が出るかもしれませんけど、今の高温耐性に栽培面で、どこまで品種で対応できるかという部分については、引き続き検討していきたいと思います。

○本間会長

議論が審議事項の方の内容に若干移ってきましたが、令和６年度優良品種決定調査に供試する系統ということで出されておりますが、こちらについて何かご意見などありましたらよろしくお願いします。

○齋藤委員
　審議事項の３ページとそれから報告事項の３ページに、ロードマップでは提示されていますけれども、令和６年度については、５年度と比較すると調査する品種が半分ぐらいになっているようなところがあるかと思うのですけども、この辺の適正なその数とか、栽培地を増やすとかっていうようなところをお考えというか、組み合わせた方、調査のやりやすさ、結果の出しやすさがあれば、教えていきたいと思います。

○佐々木幹事
　まず、数が少ないというものに関してですけれども、資料の２の方の３ページで、予備調査の方は令和６年度に関しては、このマークが全部黒抜きになっておりまして、本調査のみの記載となってございますので、予備調査に供試する系統について、先ほどの報告事項の３ページの方では、白抜きのものが令和５年度半分ぐらいあったのですけども、今年はそれを掲載してないものですから、育成時から何が来るか固まっていないので、その点はご理解いただければと思います。
　あと、調査方法ですけれども、どこでどういうふうにというのは、通常の入れ方において、既存品種と比べてどうなのかということで、その採用方法も、年によって変化することもあると思いますが、それは試験研究の方でもう一回、精査し、検討させていただければと思います。よろしくお願いします。

○本間会長
　ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。

○小粥委員
　資料１の報告事項の３ページと資料の２系統一覧のロードマップの３ページに、先ほどのご質問と回答の中で、予備調査がないのでこの線の数が違いますし、それらの品種が入るとまた違ってくるとのいうお話であったかと理解したのですけれども、斎藤委員からもあったように、なかなか６年度は、本調査に行けるものが、無事に試験の基準を下げてほしいのではないけれども、ないですねっていうお話をさせていただいたかと思います。
　ロードマップの中食等のハにあります大量調理に適した優れた炊飯特性を持つ品種というものについては、過去、５年間予備調査も本調査もなされてないようで、優良品種として要望される品種としてあるにもかかわらず、なかなかそれができてないので、それについては今、予備調査も考えなければならないわけですけど、予備調査については、育成地から来たものが来ますよというような言い方だけなのでやっていければ、先ほども問題提起させていただいたかと思うのですが、ロの（ハ）とか、ハの（イ）、（ロ）に該当するものをなるだけ多く予備調査の中で入れていただければ。ここでは、予備調査について話し合う場ではなく、本調査だというのは理解しておりますけれども、そういうところもやっていただかないと、今後は麦の場までないと思いますので、委員からのコメントとして申しさせ合っていただきまして、あと選ぶ際の参考になっていただければと思いまして、ご意見いたすものです。

○佐々木幹事
　どうもありがとうございます。育成地情報は、育成地の方にこういうものがないか情報を提供しながら、検索の方、積極的にしていきます。ありがとうございます。

○加藤委員
　加藤でございます。この場で言うことかわからないのですが、この優良品種の考え方について質問ですが、条例の中にもあるのですが、これは人が口にするものだけについて、優良品種としてこの場で審理するっていう理解で、今この条件がそもそも内容になってい

るのでそうかなと思うのですけど。
　国の方で食料、農業、農村基本法が改正するよう国会で議論されているのを見ると、食料安全保障の観点とか、人口減少とか環境に配慮したことに向けて、大改正になるという報道を見たのですが、そういうことを踏まえると、この宮城県において、人口減少、高齢化ということを考えると、この優良品種に指定する条件がこのイ、ロ、ハで、本当に今後いいのかなというふうに思ったので。令和６年度この系統については、別に何ら異議は申さないですが、この品種に供するイ、ロ、ハについて何か、この場で審議する内容でなければ、どこかでご検討されるのか、わからないのですが、今後イ、ロ、ハでどうか、私疑問になったもので、その点について教えていただければと思います。

○本間会長
　この優良品種の方針について、どういったあたりで議論されて、今後どういうふうに変えていくかとか、そういったことがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

○事務局（佐藤技術副参事）
　この優良品種については、基本的には主食用としているところでございますが、今見ていただいている要望される品種につきましても、昨年度、新たに見直ししてこの内容にしておるところでございます。その見直しする際には、今求められている米というのはどういうものなのか検討いたしまして、イ、ロ、ハというものが適しているということで定めさせていただいております。今の加藤委員からご質問いただいた、人口減少ですとか、高齢化ですが、そういったものに対応していくものが、具体的にどのようなものがあるのか、きちんと理解できていないところもありますので、今後そういった視点も必要なのかどうかを含めて、要望される品種については、今後も引き続き求められるものに見直していくようにしていきたいと思っております。

○本間会長
　例えばこの場で議論されるようなことも、反映されていくと考えてもよろしいでしょうか。

○事務局（佐藤技術副参事）
　そうですね。要望される品種の内容についても、この審議会で審議していただく内容ということになっておりますので、ここでいただいた意見等々、検討していくということになります。

○本間会長
　その他いかがでしょうか。

○千葉幹事
　みやぎ米推進課の千葉と申します。今の加藤委員からのご質問の補足的なものになりますけれども、この主要農作物品種審査会というのは、もともとは主要農作物種子法という国の法律に基づいて、主に米とか麦類とか大豆について、確実に種子を確保して、生産を確保していくというようなことで、取り組んできたということで、奨励品種に関しては、県として種子を確保していく観点から奨励品種を指定して、やってきたということがございます。
　種子法が廃止になりましたけれども、我が県では条例を定めて、従来と同じような形で優良品種という呼び方にはなりましたけれども、その優良品種に関しては、県として種子を確保して、供給する取り組みとしているところでございます。
　一方で大豆と麦類に関しても対応していた形で、この後大豆に関してもご審議いただき

ますが、大豆についても求められる品種ということで、設定をして取り組んでいるところでございます。あとはあくまでもその人の口に入る、主食用米が中心になります。それ以外の作物等々につきましては、食と農の県民条例を定めておりまして、それに基づく基本計画の中で作物生産とか、特に取り組んでいる、担い手の確保とか、そういったものを定めて取り組んでいるところでございますので、そういったものと合わせて、推進していくということになります。

〇本間会長
　それではいろいろ議論しましたが、令和６年度優良品種決定調査に供する品種については以上であることでよろしいでしょうか。
　（はい）

　ありがとうございます。ただし、審議事項についてはその通りということで、意見としては、予備調査については要望される品種のとおりになります。

　では報告事項として、令和５年度大豆優良品種決定調査に供した品種について事務局からご説明お願いします。なお報告事項のご意見ご質問は協議の時に設定させていただきます。よろしくお願いします。

〇事務局（佐藤（直））
　優良品種として要望される品種（大豆）について説明。

〇滝澤幹事
　令和５年度優良品種決定調査成績（大豆）について説明。

〇滝澤幹事
　令和６年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について説明。

〇本間会長
　それではまず。最初に先ほどの報告事項について、ご意見ご質問がございましたらお願いします。審議についての質問は、審議事項の質問になってから聞きたいと思います。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

〇本間会長
　すずみのりは採用課程で、タチナガハに変わるというような形で選ばれてきたかと思うのですが、その辺についてあまり説明がなかったもので、品種を選ぶときの選択とか、どういったあたりを狙っているか情報をいただければ。

〇滝澤幹事
　今お話しいただいたように、令和４年にすずみのりが、新しく優良品種に入りまして、タチナガハの過剰な部分を置き換えていく、タチナガハは収量性がいいので、生産現場の方ではやっぱり手取りが上がることを考えると、作りますね。栽培条件によって品質は大変ばらつきやすいということで、実需の方からもそういうようなコメントをいつもいただくような品種ですので、すずみのりの方が、振れが少ないので、そこを置き換えていくということで、今進めていくことが一つ。あとは同じ、中生の晩というくくりにはなりますけど、大豆の場合、どちらかというと最終的な用途の方が重視されると思っていまして、

水稲のように熟期で、地域で作り分けるというイメージがあまりないのかな。もともと普及する時も、水稲だと山間高冷のところ、南部平坦とかですけれども、大豆は県下一円です。
　すずみのりは幅を広げるという意味と、全国的にタチナガハはもうこれから先は減産傾向になっていくということもありますので、そのタチナガハを置き換えることを踏まえた上で、クラス的には中生の晩でありますけど、引き続き検討が必要と思います。

○本間会長
　イメージとしてはタチナガハの置き換えの品種で、すずみのりだけでなく、もう一つ用意しておく、選べるような形で用意したいとようことでよろしいでしょうか。ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

○高橋（久）副会長
　私ども公社では種子の生産需給調整も含めて、県から委託された原原種・原種の生産から始まって、現地の種子場、JA を中心とした、優良品種の作付けの調整もしています。この中で長年この課題になってきている、タンレイの問題につきましては、40 年ぐらい前に開発された品種で、昭和 40 年代、50 年代、60 年代でさかんに生産調整をしなければならない中で、稲の後に、麦なり、豆といった輪作体系をする時に非常に有効な早生品種として、この場では中生対象になっていますけれども、当時はミヤギシロメしかかなかった時代に比べれば、かなり早い仕上がりの品種ということで優位性があって宮城県全体広がりました。ただ、種子を生産している方からすると、タンレイの紫斑病の課題は非常に課題でして、種子の生産法人、生産者側からすると、最終的には手選別で全部その紫斑病をチェックして入らないようにしているということで、手間暇相当かかっておりました。それで種子の価格を決める際にも、その手間暇をどのように、種子の価格に加えて、一般の生産者に上乗せるか検討しており、検討してみるとなかなか難しいところがあって、一概にその手間暇かかっている部分をどうかしてくれという部分の要望も、種子生産者からあるのですが、まだまだ明確になってないところもあって、今継続検討しているところ。ひいては要望なんのですが、これだけ長い期間、多分実需側からすると要望の高いタンレイという品種だと思うのですね。ぜひ病気のところをなんとか解明をいただいて、ぜひこれに代わる品種を作り出せば、宮城県としては作付けの体系が、非常にバラエティに富んだ栽培体系ができると思うので、ここをぜひやっていただきたいと思っております。要望でございます。

○滝澤幹事
　東山 239 号をタンレイの比較として見ている中で一番評価しているのは紫斑病です。今おっしゃられた種子生産の労力を考えると必要です。
　あとは、50 年代から作られて広く多く実需の方がいらっしゃるので、そういうところの調整を並行して、その品種の方で進めていけば、いずれみんな一致して新しいもの切り替えてくのではないかと思っております。とにかく種子をしっかり作っていただかなければいけないなかで、負担ばっかり感じて、そこがボトルネックになっているようなのかな。やっぱり大豆生産が安定しないので、そういう意味では重要ですね。

○本間会長
　ありがとうございます。それでは、審議事項についてご質問ご意見がございますから、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。
　私の方から確認したいのですが、先ほど狭畦密植の話がありましたが、来年度は特に要望する品種の方を変えずにそれだけ試験するのでしょうか。

○滝澤幹事
　本来晩播とセットになっているという考えもありますので、そこの中には要望される部分としてはできると考えます。あとは全般的に書かれた部分で可能ですね。

○本間会長
　ありがとうございます。その場合、例えば標準品質とか、あるいは比較品質とかはどうですか。

○滝澤幹事
　狭畦密植となると熟期が早くて、倒伏に強いとなるとタンレイしかないので、それでやるしかないと思っています。

○本間会長
　タンレイを狭畦にしていくのですね。

○滝澤幹事
　これを比較して評価していきます。

○本間会長
　その他いかがでしょうか。

○高橋（久）副会長
　審議事項の中の６年度、品種決定調査の供試計画２ページ目に、東北 194 号が再び、その調査に入るというご説明だったかと思うですけども、それが一番後ろ側にある東北 194 号を再調査する経緯の中で説明されましたが、大崎管内でやっている子実用トウモロコシに大豆、乾田直播栽培の体系ということがあるのですけれども、稲のところでも議論がありました。私個人的に思うのは、麦もかなり高温によって今の作期が変わってくるだろうと。どんどんと登熟して収穫する時期が早まる一方で、それに対応するために麦ももっと遅く播いていいのではいかと。普及員時代指導しましたけれども、小麦は、宮城県では、これまで 10 月 10 日が播種適期と知っているのですが、それを１か月ぐらい遅らせても、収穫の時期がそれほど後ろにいかないということからすると、麦も入れてやるとすれば、大豆も麦が入ることによって、もっと早く播ける。そしてもっと早くタンレイよりも早く収穫できるのか、もっと遅く取れる、大豆側のですね、先ほど稲のところでお話しました、超晩播を目指すぐらいのものが入ってきてもいいのかなというふうに思っております。

○滝澤幹事
　大豆は古川農試では育成していないので、系統を配付いただく農研機構や長野県で出てこないので、難しいところもありますが、極晩播までできるのは小面積しかありませんけど、納豆用のすずほのかは７月播種できる。入れ替えるものが入ってくれば、十分検討できると思います。

○本間会長
　その他はいかがでしょうか。

○小粥委員
　試験のことで、生産の現場に詳しくないので、合ってないことをお話するのかもしれないですが、今回論点の一つになっている東北 194 号を再調査するっていうことについてで

すけれども。今回プロジェクトがあることで、改めて再調査をすることになったということで、別にそのこと自体に特に反対するとか、そういう話ではないのですけれども、こうやって見てみると、その晩播適応性で多収性を持つものについて言えば、例えば普段からの調査で、標準と晩生のもので、20cm、10cmに分けて調査方法自体も、例えばこういう密植適応性があるようであれば、調査の中でバリエーションをもって調査をしていれば、こういうこともなく、後でもう一年またかかることもなくて良かったと思います。ここからは本調査にする品目、品種、品目について異議は申さないものの、例えば調査手法において、その品種に合わせたバリエーションを持たせた生産方法を持ってやっていかれてはいいのではないかという、意見を一つ申し上げたいと思ったものです。

それからもう一つですけれども。５年にとれた大豆については、この後、加工適性について色々調べますっていう話が出ていまして。前回、麦の時にはパンに向いているとか、麺に向いているという話も色々と話を聞いており、すぐにできないのは全然良いのですが、例えば調査の時に前年産であるとか、前々年産なのか、こういう結果が出ましたよみたいな話も合わせてあると、この大豆は、例えば豆腐とかに向いているとか、タンパクが多いから、こういう豆乳に向いているという話もできて、合わせてその生産だけじゃなく、加工まで見なくてはいけないと、メッセージの中でされていたのですけど、資料を見るとそのあたりがなかなかついていないので、できれば議論する際についていると、なお豊かな話し合いができると思いまして。今できないのはもちろんわかっていますが、次の回、あるいは前回とかというもの、ときちんとその資料を出してみられると、特に大豆は長く調査をするので、比較もわかりますし、いいのではないかと思いまして。ぜひ検討していただければと思いました。

○滝澤幹事

ご意見ありがとうございます。これからはバラエティな栽植という部分がありますけど、そこは、ある程度適応性の密植であれば、適応性みたいなところはかなり行けるところがあります。違う栽植条件でということも含めて考えていきたいと思います。あと、加工適性については本当ご意見いただいた通りでデータが出せるのであれば、お示しして、そこで合わせてご審議いただければと思います。

○本間会長

ありがとうございます。確かに豆腐の加工適性とか、どのタイミングで入れるかというのは、もう少し計画的にやってもいいのかなというふうに思います。５年やって結局加工適正がよくなくてすごく無駄になってしまうと思うので、基本調査の２年目には必ずやるとか、そういったルール作りも合わせて検討していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

○大崎委員

意見というより要望ですけど、子実用トウモロコシ大豆、乾田直播の輪作体系というプロジェクトですけど、うちは青刈りトウモロコシ、大豆、乾田直播種でやっています。大豆も多収品種を目指して、プロジェクトに参加するのであれば、この乾田直播も超多収米を持ってくれば農家の収入としても上がると思ったので、そのようなプロジェクトに乗っかってもいいかなと、一言提案させていただきます。

○滝澤幹事

ありがとうございます。一番理論的にはそれが全体としては、コストの低減につながるかなというふうに思います。今回の乾田直播は古川農試が直接関わってないところもあるので、東北農研に意見として伝えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

〇本間会長
　要望はどんどんと増えていくとは思いますが、例えばこういった栽培方法に合わせた機械とかも検討していただければと思います。その他、ご意見などいかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

　それでは、令和６年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）については原案通り適当である。それでよろしいでしょうか。
　（はい）

　賛同の声からいただきましたので、令和６年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）については、適当であることといたします。以上で、質問事項の審議を終了したいと思います。
　次に答申案をまとめたいと思いますが、いかが取り計らいましょうか。
　特にご意見なければ議長一任ということで、答申案を申し上げたいと思います。今回知事から諮問のあった事項について適当と認める旨、答申したいと思いますが、よろしいでしょうか。
　（はい）

　では、そのように答申することといたします。具体的な答申内容につきましては私と事務局に一任いただいてよろしいでしょうか。
　（はい）

　ありがとうございます。それでは、答申文につきましても、私と事務局で調製させていただきます。

　次に、その他としてありますが、皆様方から何かありますでしょうか。
　よろしいでしょうか。それでは以上をもちまして、本日の審議会の審議は終了となります。進行を事務局にお返ししたいと思います。ご審議どうもありがとうございました。

　〇事務局（増岡班長）
　皆様、長時間にわたってご審議ただきまして、ありがとうございました。そして答申案につきましても決定していただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして、主要農作物品種審査会の一切を終了させていただきます。長時間にわたりご審議いただきまして、誠にありがとうございました。